



常世田 正樹 議員



インフラ整備について

問 昭和期に開発された住宅地の道路について、経年劣化

等により破損や陥没が起きている。私道のため行政として対策や処置を行うことができない。私道を市に寄附する際、所有権を確定するために結構な費用がかかる。公図取得費用や裁判所への申立て費用、そして時間もかかる。寄附する際の条件について、私道を市に寄附することを目的とした所在不明者等の調査について、市が所有者の特定や公図の取り寄せを行うことはできないのか伺う。

答 一件は、道路敷地が市に無償譲渡され、所有権の移転が速やかにできること。幅員が4m以上、舗装や排水施設が整備されていること。行き止まりではなく、起終点が市道や国・県道のいずれかに接続していること等。土地所有者の所在調査や公図の取り寄せは、地権者をお願いしている。

問 井戸野インターチェンジの供用時期は6年後であり、

開通に合わせてインター周辺の開発と整備が想定される。銚子連絡道路ができたからといって人と物が簡単に集まるわけではない。各地域との交流・連携は大事であるが、既に抜き差しならない状況にきている。人口確保、企業誘致、医療体制の充実等々、近隣自治体と足並みをそろえている猶予はない。近隣自治体よりもめきんで、東総地域を牽引していくくらいの意気込みを市長に持ってほしい。インター周辺の開発や未来予想図について、どのような考えやプランがあるのか市長に伺う。

答 旭市までの区間が開通する

こと圏央道なども一体となった首都圏や成田空港など、各地域との交流・連携の促進につながるものと期待している。交通アクセスの向上による観光客や移住者の増加、それに伴う地域の活性化などが見込まれるほか、企業誘致や通勤圏が広がることによる雇用の拡大、また防災機能強化にもつながるなど大きな可能性があると考えている。

その他の質問事項

- 明治川の維持管理について
- 青少年の健全育成について

米政策と本市の取り組みについて

問 令和6年の主食用米・飼料用米・ホールクロップサイ

レイジの作付面積と現状を伺う。
※ホールクロップサイレイジ：解説は16ページ。

答 作付面積については、主食用米が2596ha、飼料用

米が715ha、ホールクロップサイレイジ用稲が58haだった。昨年の年明け頃には米価上昇の動きが見られたものの、大きな作付の変化はなく、飼料用米の面積は、対前年10%の減にとどまっている。

問 飼料用米に対する労働力の確保、収益性、栽培技術と

いった農家の課題や懸念点について、具体的に伺う。

答 労働力の確保としてはDX

を進め、AIなどの最先端技術を活用することにより、少ない人数で高い生産性を維持できるようにしていくことが重要であると考えている。また、機械の新規導入に対しては、補助金を活用できる事業が多いものの、単なる更

新では補助対象とならない事業が多く、高額な機械の更新が経営上の課題となっている。引き続き

国・県の補助事業や栽培技術の情報提供、低利な制度資金の活用などについて支援していきたい。

旭駅前開発と整備について

問 駅前の開発や整備についての計画や空き地や共用空間

の利活用の方針があるか伺う。

答 都市計画及び開発計画などはない。第4次定住自立圏

共生ビジョンで、空き店舗利用などによる中心市街地活性化を目的に銀座通り商店街などを利用したイベントやコミュニティ活動などの推進を図ることとしている。

問 駅前のあるべき姿と今後の

取り組みについて、旭駅は市の顔であり、玄関口。将来展望というところで、市長の個人的な希望や期待も含めて見解を伺う。

答 駅前を気ある場所にした

いう強い思いがある。空き店舗利用の支援などを行っていくとともに、官民連携により地域活性化の波が、旭駅周辺にも広がることで、元気やにぎわいが波及していくようなまちづくりを、市民、事業者とともに、取り組んでいく。

QRコードを読み取ると、質問した議員の録画映像がご覧いただけます。